

8月2日（日）、3日（月）と、木曽の御嶽山（3067）に息子と行ってきた。息子とは毎年息子の会社夏休みを利用して、ここ6年ほど山旅をしてきた。昨年は東北の朝日連峰、一昨年は飯豊連峰。今年は私の希望もあり、御嶽山にした。いつも白山頂上から雲海に浮かぶその秀麗な山容に魅せられ、古くから信仰の山として名高い名山に一度は登りたいと以前から思っていた。また、勤務先の知人Sさんが2014年9月27日の御嶽山噴火で残念にも被災され、亡くなられたのを現地で慰霊したいとの思いもあった。

一日目：金沢6:00 発の「かがやき」で長野へ、長野で息子と落ち合い、「しなの」で木曽福島へ。我々が利用した登山コースはもともと古くから登山道が拓けたといわれる黒沢口。それもロープウェイを利用して7合目まで登る最短コースである。木曽福島駅からバスで1時間強で御嶽山ロープウェイ駅へ到着。ロープウェイで標高2150の飯森高原駅へ12:15着。ロープウェイの駅では白装束の数人のグループに何組か会った。さすがは信仰の山である。

ここからいよいよ登山開始。曇でひんやりと涼しい。登山路は多くの登山者が歩いたであろう横木の階段状の道。あたりはオオシラビソやコメツガの林である。ときおり、すれ違う人がいるが静かなゆったりした山道が続いて気持ちがよい。13:40 八合目の女人堂小屋(2480)に到着。昔からの信仰登山の人達が休んでいったであろう雰囲気のある小屋。その横には多くの「霊神碑」とよばれる板状の石碑が建てられ、石仏が並ぶ霊場がある。ここが森林限界で後は岩山の様相を呈してくる。石室山荘を過ぎて九合目となる。当初は二ノ池の小屋に向かう予定だったが、明日の天候が悪い可能性もあったので、頂上・剣ヶ峰を目指す。ガレた尾根坂を上りつめ、今般の噴火以降に新設されたコンクリートシェルターを通り過ぎて長い石段を上り、御嶽神社奥社のある最高峰剣ヶ峰山頂に到着した(15:50)。登り始めてから3時間余り。生憎の曇でガスもあり、眺望が利かないのは残念。写真を撮って、階段を下ったところにあ

る2014年噴火による被災者慰霊碑に向かう。小さな「安らかに」と書かれた慰霊碑。ここで、持ってきた蠟燭と線香をあげて知人Sさんの当時を偲び、手を合わせてしばし黙祷した。共に登られた奥様は重傷を受けたが生き延びられたと聞いている。どのような状況だったのだろうか。運命というほかはない。この噴火で死者は58人、行方不明者は5人、戦後最悪の噴火災害となった。頂上から、噴火灰で一部を覆われた二ノ池を回って二ノ池山荘（今期は一般営業中止）を過ぎ、その奥の二ノ池ヒュッテに到着した（16:30）。宿泊者はわれわれも含めて3グループ7人。それぞれ個室でゆっくりと休むことができた。

8月3日。早朝4時起床、4:25 小屋発、4:50 頂上（剣ヶ峰）着。雲の間から真っ赤なご来光を見ることができた。雲海の中に、乗鞍、槍、穂高。また中央アルプス、南アルプス、その奥にうっすらと富士山をみることができた。南アルプスでは、以前に息子と歩いた北岳なども確認できた。白山方面は雲で全く見られず残念。二ノ池ヒュッテに戻り朝食。7:00 小屋を出発。摩利支天山(2959)に向かう。サイノ河原の広大な谷を隔てて、摩利支天山の尾根が台形上にどっしりと横たわる。その尾根にとりつく崖地をトラバース気味に登る。この崖地はこれまでのコースとは違い、多くの高山植物が岩の間に咲き乱れており、楽しい。7:50 摩利支天山頂上に到着。8:50 二ノ池ヒュッテに戻り摩利支天山尾根を眺めながらしばし休憩。9:10 出発。11:05 ロープウェイ、11:55 バスにて木曽福島駅へ。列車待ち時間がたっぷりあったので、駅前のレストランで二人で祝杯を挙げた。Sさんの慰霊もでき、内容のある良い山旅であった。



御嶽山・剣ヶ峰頂上直下の慰霊碑（2020.8.2）